

編 集 後 記

リハビリテーション医学における医学教育の問題を今月の特集としてとりあげた。平常顔も見知っており議論もよくしているので何を述べるかもおよその推測がつき、陳腐なものになるのを怖れたが、実際はかなり生々しい、激しいエネルギーを感じさせる文章が多かった。それでどちらかといえばほっとしているというのが実感である。

横山、土屋氏のリハビリテーション医学の哲学、歩みをはじめとして明石氏の教育の実践の場の紹介、大川氏の学生レポートなど、また上田氏の文章の中にある卒後教育の講習会など、年を追ってリハビリテーション医学の教育もコンクリートになって来ている。本邦のリハビリテーション医学がほとんど講座となっていないことが教育実施の上の大きな欠陥であり障壁となっているが、荻島氏のいうごとく、大体講座制そのものに問題があるのであって編集子も全く同感である。いずれにしても、諸外国からの直輸入から少しは独自の消化したプログラムをもって卒前卒後教育を行うようになって来たことが理解され、

またその実践にあたって諸氏が苦心されていることが推察される。今回は若年のリハ医を志す人々の簡単な投稿を歓迎したが、考え方もまだ新鮮でわれわれの未だいろいろ足りない点を知り考えさせられた。このような若い医師のエネルギーを成功的な実績に導くために先輩諸氏のより一層の御指導を切望するものである。

三好氏の Dantrolene Sodium の論文は、私事で恐縮だが編集子もこの薬剤に興味を持って臨床実験中なので大いに参考にさせていただくつもりである。この薬剤の特異性については筋肉の江橋節郎氏が先ごろの東京医学会講演の中でも指摘されたとおり、研究にも臨床にも注目を集めているものである。養育院の荻島・真島氏らのグループの筋血流量の研究も単に片麻痺患者のみに止まらず、多くの筋神経疾患に応用し得てその病態生理の解明の手がかりとなることであろう。臨床医家の行う研究としては典型的なまた理解し易い優れた論文である。(大井 淑雄)

次 号 予 告 (第 4 巻 第 5 号)

特 集 脊髄損傷のリハビリテーション

脊髄損傷の疫学的考察……………九州労災病院	赤 津 隆
装具 (ニューマティックブレイス) ……徳島大	野 島 元 雄
合併症……………山陰労災病院	新 宮 彦 助
労災における脊髄損傷の問題点……………関東労災病院	本 多 純 男
集尿器および排尿自助具 (最近の動向) ……神奈川リハセンター	宮 崎 一 興・他
女性用収尿器の工夫……………国立身障センター	橋 倉 一 裕・他
尿失禁防止のための外括約筋	

電気刺激装置……………星ヶ丘厚生年金病院	中新井 邦 夫
車椅子用クッションに関する工夫……………国立身障センター	木 村 哲 彦・他
都営車椅子使用者向住宅の判定について……………都身障センター	寺 山 久 美 子
脊髄電位に関する最近の研究 (文献紹介) ……神奈川ゆかり園	須 藤 成 臣

講 座	リハビリテーション診断学 (5)……………東大病院	上 田 敏
	運動の制御 (2)……………千葉大	本 間 三 郎
一 頁 講 座	職業リハビリテーション (5) (職業指導) ……神奈川リハセンター	大 木 勉
印象記	第 5 回汎太平洋リハビリテーション会議……………肢体不自由児協会	飯 原 久 弥

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 園 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田, 田村, 鹿島)